令和５年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　　０４　練馬区立中村中学校

	課題分析	授業改善策
国語	＜1年＞【主体的に学習に取り組む態度】 〇授業に関しては関心をもって取り組む姿勢が見える。しかしノート提出において、ワークシートでリフレクションを書けていなかったり、リフレクションを書いていても授業の感想になってしまったり、まとめを書いてしまっている生徒が多いことがわかった。 ＜２年＞【知識・技能】 〇中間考査、期末考査の結果から、知識・技能の達成率が低いことがわかった。 ＜３年＞【思考・判断・表現】 〇思考・判断・表現の中でも、特に書くことに関して課題がある。	＜1年＞【主体的に学習に取り組む態度】 〇二学期初めにもう一度、リフレクションとは何か、リフレクションはなぜ大切なのかを認識させていく。また、授業の最後にリフレクションを書く時間をしっかりと確保できるように授業を進めていく。 ＜２年＞【知識・技能】 〇書く学習では、文章構成、論理的展開の学習を優先するためにタブレットを使用してきた。そのため漢字を書く機会が減っていることが原因として考えられる。学習目的に応じて、漢字を日常的に使用する機会を多くしていく。 ＜３年＞【思考・判断・表現】 〇文のねじれや、係り受け等の基本事項について自ら気付き修正する力や、事実と主張を関連付けた構成力などを高めるために、作品の相互交流学習や具体例の提示を行う。
社会	＜1年＞【思考・判断・表現】 〇１学期の成績の各観点の達成率の平均を見ると、思考・判断・表現は58%であり、知識・技能や主体的に学習に取り組む態度に比べて低く、課題が見られた。 ＜２年＞【思考・判断・表現】 〇１学期の成績における観点別達成率の中で、思考・判断・表現は知識・技能や主体的に学習に取り組む態度に比べて低く、課題がある。 ＜３年＞【知識・技能】 〇1学期の各観点で、知識・技能が62%と３観点で低く、用語の捉え間違いなどがあった。	＜1年＞【思考・判断・表現】 〇単元のまとめのレポートでは、単元の問いに対して正しくまとめられていない生徒が多く見られた。レポートのまとめに関する評価基準をルーブリックで示すとともに、まとめる上でのポイントを示し、思考・判断・表現の力を育成していく。 ＜２年＞【思考・判断・表現】 〇各単元の目標に中心的に関わるポイントについての理解を深めるため、できればICTも利用しながらグループディスカッションやバズセッション等に取り組み、そのまとめの発表やレポート作成などを適宜導入する。 ＜３年＞【知識・技能】 〇各単元の授業で、用語や出来事の復習に取り組ませる。取り組むためにカフートを適時用いて、知識・技能の定着に活用していく。また、まとめプリントを活用して、正しく用語や出来事をまとめさせて知識を定着できるようにする。
数学	＜１年＞【思考・判断・表現】 〇中間考査、期末考査の結果から、思考・判断・表現の達成率は、知識・技能の達成率よりも低いことがわかった。	＜１年＞【思考・判断・表現】 〇基礎的な計算ができることで満足している生徒が多いので、数学的な考え方や見方を養う必要がある。数学を使って説明できることを増やすことで表現力を高めることができる。そのため、グループ活動などを取り入れて、数学的な活動を通しながら思考・判断・表現の力を伸ばせるような授業を展開する。

	＜２年＞【思考・判断・表現】 〇定期考査の平均得点は 68.8 点、平均到達度は思考・判断・表現 60.2%、知識・技能 75.3%である。思考・判断・表現が低い理由として、応用し、既習事項を組み合わせて解く問題を苦手とする生徒が多いことが挙げられる。また、問題文を読み取ることができない生徒がおり、すぐに諦めてしまう生徒も見られる。 ＜３年＞【思考・判断・表現】 〇知識・技能の達成率と思考・判断・表現の達成率を比べてみると、思考・判断・表現の達成率の方が３割ほど低いことがわかる。応用問題への対策不足であることが分かる。また、理解度に差があり、二極化してきている。	＜２年＞【思考・判断・表現】 〇問題を解く際に既習事項の確認を行い、どのような手だてで課題解決に向かうのか、筋道を考えさせる指導や、諦めずに取り組ませる指導が必要である。その問題と既習事項とのつながりを示し、考え方のポイントを指導する。 ＜３年＞【思考・判断・表現】 〇応用問題を何度も繰り返し解くことを授業内で行う。また、テスト前に何度も解けるような課題プリントを配布して演習量を増やせるようにする。また、理解度が低い生徒に対して、習熟度別の少人数授業を活かして丁寧に問題を解くことを意識していく。
理科	＜1 年＞【主体的に学習に取り組む態度】 〇授業に関しては関心をもって取り組むことができている。しかし、「すすんで発言や質問できているか」の質問に対しては 5 割程度の生徒が「行えていない」と回答している。また「先生の指示を聞いていたか」の質問に 4 割が「そう思わない」と回答している。 ＜２年＞【主体的に学習に取り組む態度】 〇興味・関心をもって授業に臨み、科学的に思考しようという姿勢が見られる。一方、積極的に自分の考えを発言する生徒が限定されているため、発言機会を増やすような働きかけを継続する必要がある。 ＜３年＞【思考・判断・表現】 〇これまでの既習事項を関連付けて説明することや、根拠を的確に示して説明することに課題が見られる。	＜1 年＞【主体的に学習に取り組む態度】 〇ホワイトボードに記入する人が中心となり、しっかり交代させながら話合いのルールを確認する。話し合う場面とこちらが説明する場面での切り替えができない者がいる。しっかりメリハリをつけさせ、記入する時間、説明を聞く時間の切り換えを大切にする。 ＜２年＞【主体的に学習に取り組む態度】 〇ホワイトボードやジャムボードを活用することで意見を共有する価値や認め合う楽しさを通して理解に結び付けていく。自信をもって発言する生徒を褒め、間違いを恐れず発言し、多様な意見を認め合う場を数多く作るよう努める。 ＜３年＞【思考・判断・表現】 〇「個人で考える→少人数グループで話し合う→再度個人での考えを修正・深化」のサイクルを、ホワイトボードやタブレットなどのツールを活用して思考の為の言語活動を充実させる。言語活動の際は焦点を絞って取り組めるよう、課題や発問を精選する。
音楽	＜1 年＞【知識・技能】 〇基礎的な音楽の力（読譜力、発声の仕方、音楽文化についての知識等）の定着度に個人差がある。 ＜２年＞【主体的に取り組む態度】 〇よく話を聞いて授業を受けている。だが、発言やリフレクションによる変化を見ると、やや受け身的な面が見られるため、主体的に音楽活動に取り組もうとす	＜1 年＞【知識・技能】 〇基礎基本の定着を目指し、反復学習、スモールステップの学習を多く取り入れる。 ＜２年＞【主体的に取り組む態度】 〇少人数グループで生徒主体に活動し、お互いに高め合う場面を、授業の中に取り入れる。 〇相互評価や自己評価の場面を設定し、自分たちで課題を意識し改善しようとする意識を高めさせる。

	る意識を高めたい。 ＜３年＞【思考・判断・表現】 〇自分が音楽を味わい、感じたことを、音楽の特徴と結び付けて捉える力を高め、表現や鑑賞の活動をより深いものにしていきたい。また、リフレクションによる変化がもっと活発になるようにしていきたい。	＜３年＞【思考・判断・表現】 〇音楽を形作っている要素を常に意識できるよう、掲示物やワークシートを用いて授業を行う。 〇音楽から感じたことを深めるために、感じたことの生徒同士の交流の場面を、いろいろな方法（発表、プリント交換、少人数での話し合い等）で設定する。
美術	＜1 年＞【思考・判断・表現】 〇モチーフをよく観察することができる生徒が多いが、モチーフの特徴を粘り強く表現することが難しい。細部に対して構図や作品自体の全体感、明度のバランスは見えていない。全体と細部を行き来する見方が苦手な生徒が多い。 ＜２年＞【知識・技能】 〇柔軟な発想で構想を練ることができるが、技能面で苦手意識をもっている生徒が多い。画材が自由選択になった際には苦手な画材を避け表現に対して消極的になりがちである。 ＜３年＞【思考・判断・表現】 〇発想をかなり苦手としている生徒は一部いるが、多くの生徒はある程度の発想ができる。参考作品や既存の作品を単純にコラージュした作品になってしまう生徒もいる。創造的な発想ができる生徒は一部である。	＜1 年＞【思考・判断・表現】 〇作品の制作では作品の全体感を捉えることができるように、タブレットで作品の写真を撮影させる。見通しをもって制作し、自分の制作を客観的に振り返るためにも毎授業で行う。 ＜２年＞【知識・技能】 〇技能の支援を行うとともに、技能に差が生まれにくい題材を扱う。個別指導の際に、技能ばかりでなく発想のよさに注目して声掛けを行う。 ＜３年＞【思考・判断・表現】 〇自分の用意した写真や素材を用いてコラージュをする題材を扱う。シュルレアリスムの非現実感を自分の生活の写真で制作させることで、美術の表現の自由さを感じ取らせ、自由な発想をさせる機会にする。
保健体育	＜1 年＞【思考・判断・表現】 〇タブレットを活用したゲーム分析や動作分析をすることで、生徒自身やグループでの課題に気付く一助となっている。 ＜２年＞【主体的に取り組む態度】 〇すすんで発言したり質問したりすることができたという問いに対して約４割の生徒が否定的な回答をしている。 ＜３年＞【思考・判断・表現】 〇タブレットの活用を通して、自分のフォームをチェックしたり、ゲームの中でチームの課題を見いだしたりすることができている。	＜1 年＞【思考・判断・表現】 〇基礎的な動作のチェックやゲームの分析等に時間がかかる。運動量を確保しつつ、どのように活用していくか更なる検討を進める。 ＜２年＞【主体的に取り組む態度】 〇タブレットによる映像資料の有効活用や、ポイントの提示方法の工夫により、アドバイスの観点を分かりやすくする。苦手な生徒も方法論を深く学べるようにする。 ＜３年＞【思考・判断・表現】 〇タブレットの活用では、単元の基礎知識を習得したうえで使用していくことが前提である。ゲームの映像分析に、時間を要する。授業以外の時間の活用と、教え合いなどの活動を毎授業少しずつ取り入れていく。

技術・家庭	＜1年＞【主体的に学習に取り組む態度】 〇タブレットには慣れているが、まとめようとしても技能が伴わない生徒が多い。 ＜２年＞【主体的に学習に取り組む態度】 〇学習意欲が高いため、どの授業にも真剣に取り組む。座学、製作において「挑戦」項目を位置付け、さらに意識を高めたい。 ＜３年＞【主体的に学習に取り組む態度】 〇これまで習得した知識と技術をいかし、前向きに進めようと努力することができる。	＜1年＞【主体的に学習に取り組む態度】 〇タブレットで生徒間の意見を共有させ、クラス全体へと学びを進めた。それらの内容を画像で撮影し、提出する形をとった。簡単な操作でタブレットに慣れさせる。 ＜２年＞【主体的に学習に取り組む態度】 〇今年度は、自分の製作の経過を画像で保存させる試みをしている。生徒には、技能的な動画や画面をクラスルームで共有させている。さらに意識が高まるように改善している。 ＜３年＞【主体的に学習に取り組む態度】 〇リフレクションの文章表現が感想にとどまらないように、技能面の振り返りについて考えさせる。友達の製作、その過程をみながら切磋琢磨させる。
外国語	＜１年＞【思考・判断・表現】 〇単語一つひとつの意味やスペルは分かるが、それを表現するときの使い方や文法上の変化などに苦手意識が高い。小学校で会話を多く取り入れているので、それをもとに細かい表現方法などを身に付けていく必要がある。 ＜２年＞　【思考・判断・表現】 〇知っている文法知識を使って伝えたいことを適切に伝える、というところに課題がある。直訳しようとして逆に難しい表現になってしまうので、言いたいことはこういうこと…という考え方で、意訳的に英文を書けるようにしたい。 ＜３年＞【知識・技能】 〇中間・期末考査では、比較的高い点数が取れているが、単元末に行う書き取りテストにおいて、個人差が出ている。	＜１年＞【思考・判断・表現】 〇言いたいことを文法上でも正しく伝えられるように、プリントなどで確認しながら会話活動を通して繰り返し練習していく。 ＜２年＞　【思考・判断・表現】 〇毎時の帯活動で、対話または筆記による表現活動を取り入れる。 〇文法項目を学ぶごとに表現活動を入れたり、単元テストにおける筆記で自分のことや周りのことを表現する練習をさせたりする。 ＜３年＞【知識・技能】 〇出題範囲の単語については、タブレットを用いたチェックテストを繰り返し行えるようになっているので、しっかり活用するように声がけする。